

## 2. 金沢大学宝町遺跡

### 医学部附属病院地区地下油槽地点

#### (1) はじめに

医学部附属病院地区に属する。特高受変電室の東側に位置し、アスファルト道路にも一部かかる。北側は98年度(病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点)に調査しており、南側は1997～98年度に行った配管埋設に伴う発掘調査(配管切り廻し)によって調査されている。調査区の北東部が、病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点と接する。

調査は平成12(2000)年7月から8月にかけて断続的に3回にわけて行われた。正確な調査期間は、①2000年7月11～14日、②7月19～24日、③8月14～17日で、総調査面積は約150m<sup>2</sup>(①約60m<sup>2</sup>、②約50m<sup>2</sup>、③約40m<sup>2</sup>)である。

#### (2) 調査結果

##### 近世(第13図)

上述したように、病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点と接するため、確認された遺構や出土遺物は、『金沢大学文化財学研究2』(金沢大学埋蔵文化財調査センター 2000)で報告した宝町遺跡(医学部附属病院地区)から一連のものである。今回確認した遺構は土坑6基(うち井戸1、地下室1)である。

##### 遺構(第15図)・遺物(第16, 17図)

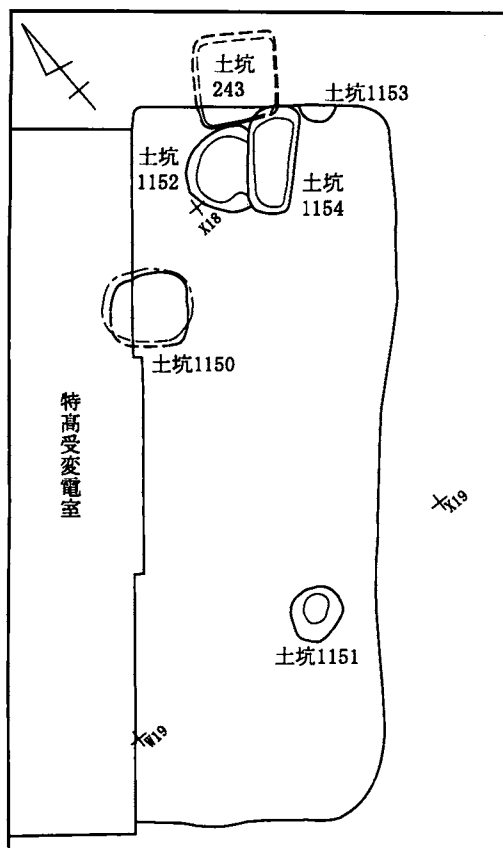
土坑は6基あり、そのうち土坑243は病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点(98年度調査)で確認された土坑で、当時調査範囲外にかかっていた部分が今回の調査で確認された。土坑243からは焼土や被熱した遺物が多いため、火災ごみを片づけた廃棄坑と推測される。土坑243を掘り込みながら、土坑1154, 1152がその南に位置し、その東側に井戸である土坑1153が位置する。土坑1154は土坑243を掘り込み、その土坑1154を土坑1152が掘り込んでいる。そのため、土坑243出土遺物と土坑1154, 1152出土遺物の接合が多くみられた。井戸である土坑1153からは瓦が多く出土した。土坑1150は、全体の1/4ほどを特高受変電室の掘り込みによって壊されているが、壁がオーバーハングする土坑で、フラスコ状の地下室であった可能性が高い。

地下油槽地点を、天保・安政間の金沢城下絵図に重ねてみると、田中家の裏庭付近にあたると思われる。他の屋敷地の裏庭と比較すると、遺構の数が少ない印象を受けるが、後世の削平と攪乱を考慮すると妥当な数かもしれない。

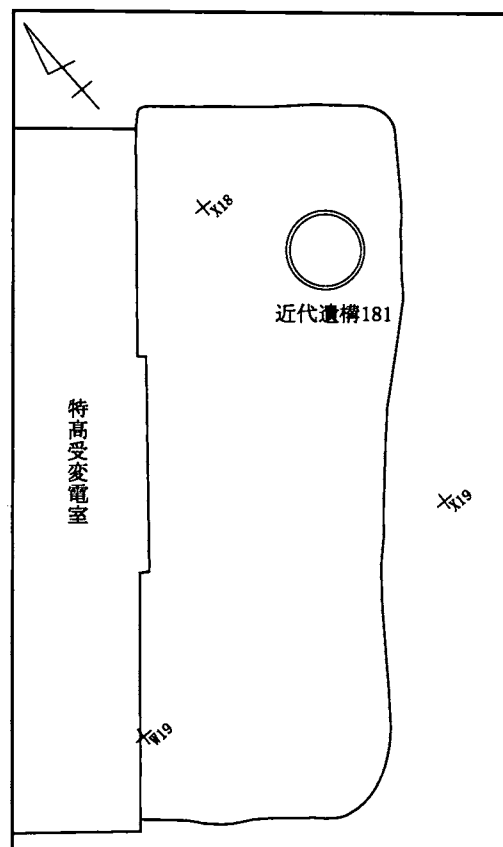
##### 近・現代(第14図)

##### 遺構

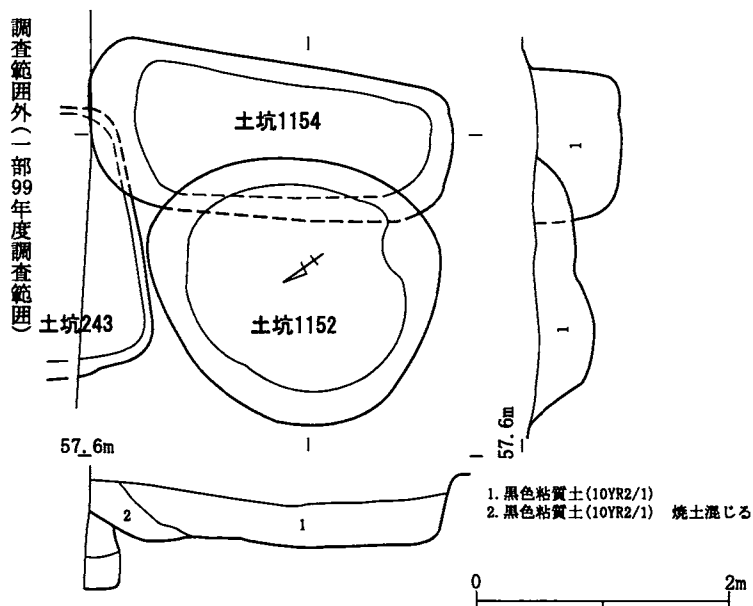
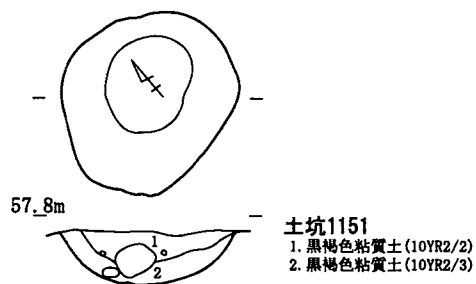
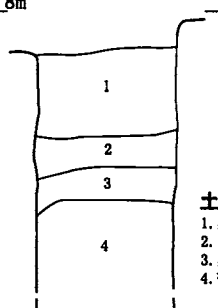
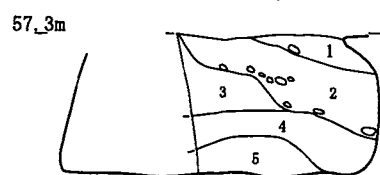
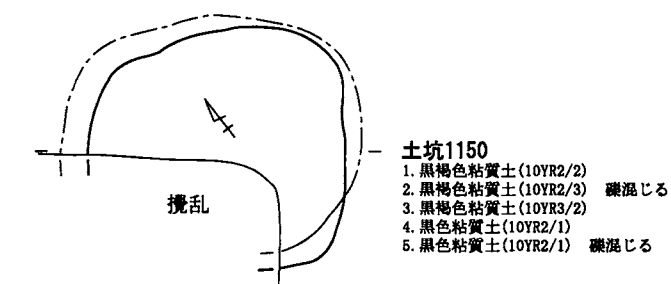
近・現代の遺構は、直径2mのコンクリート製の枠である近代遺構181のみである。工事関係者の話では、昔の肥溜めであるとのことだが詳細は不明である。枠内には、コンクリートや石、碎石などが詰め込まれており、悪臭はしなかった。



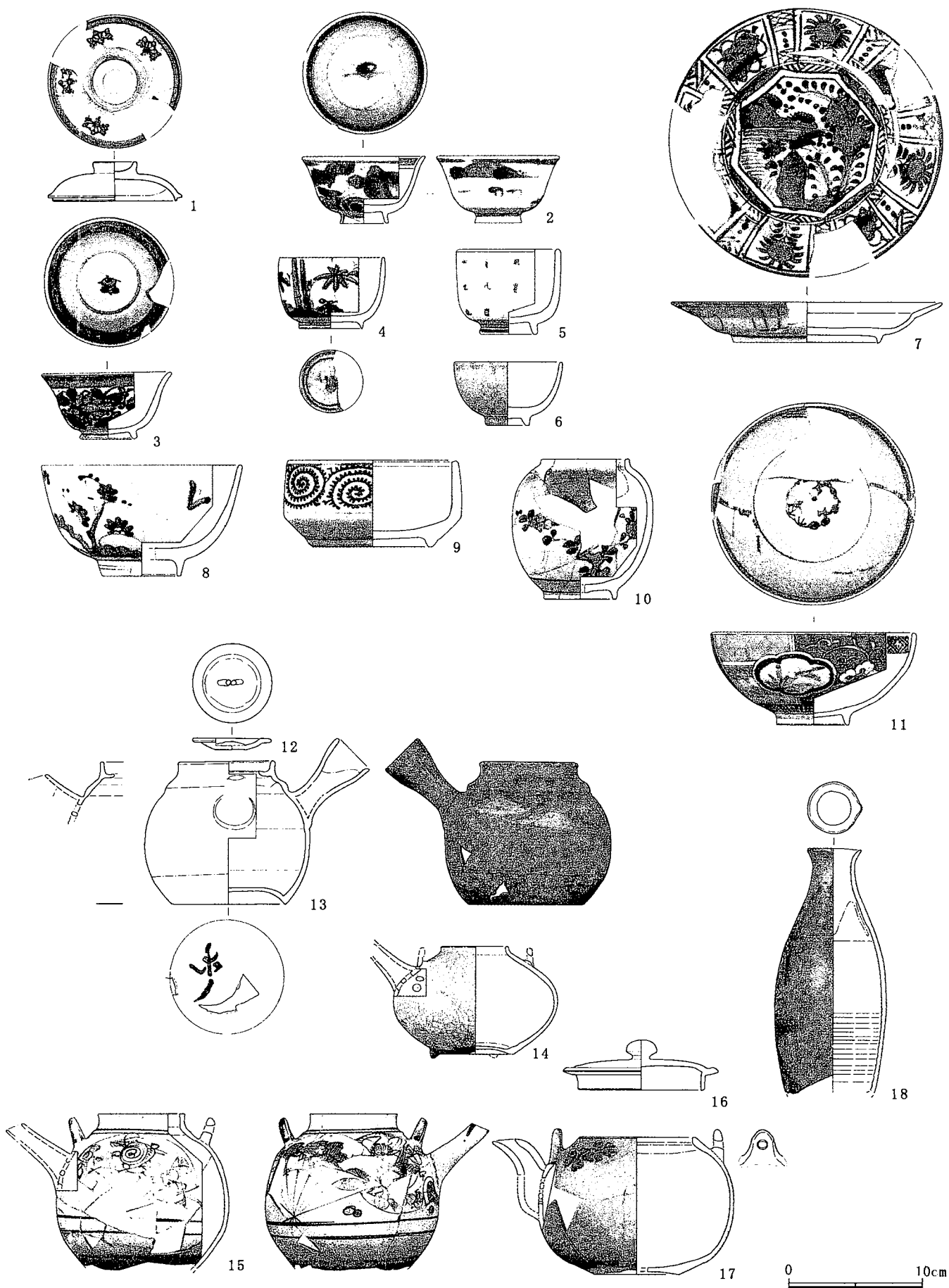
第13図 地下油槽地点 近世 (1/200)



第14図 地下油槽地点 近・現代 (1/200)

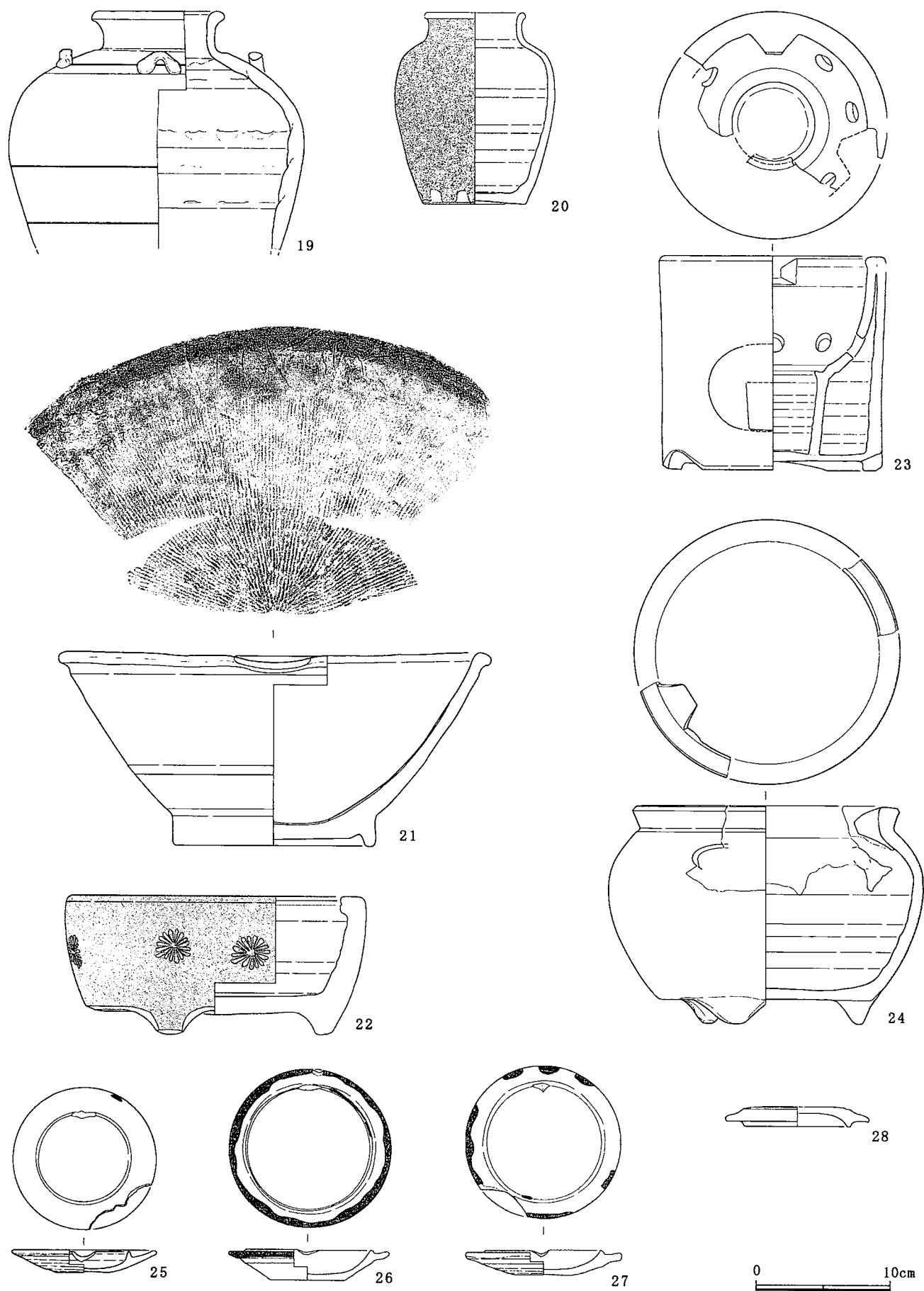


第15図 地下油槽地点 近世の遺構 (1/60)



第16図 地下油槽地点出土遺物1 (1/4)

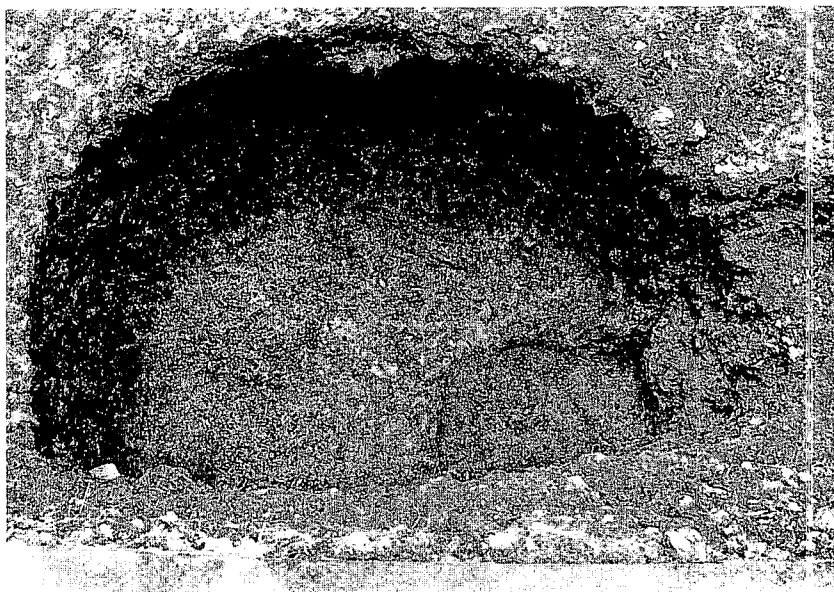
1～10 磁器—染付, 11 磁器—色絵・染付, 12・16 陶器—灰釉, 13 陶器—灰釉・鉄釉・白泥, 14 陶器—透明釉・白泥, 15 陶器—灰釉・色絵, 17 陶器—灰釉・鉄絵, 18 陶器—灰釉・鉄釉



第17図 地下油槽地点出土遺物2 (1/4)

19 陶器—灰釉, 20 陶器—鉄釉, 21 陶器—鉄泥, 22 土師質土器—赤漆, 23・28 土師質土器, 24 土師質土器—鉛釉, 25 陶器—灰釉  
26・27 土師質土器—透明釉

地下油槽地点  
土坑1150



土坑1153



出土遺物  
(土坑1150)

